

ここで、と紹介された場所を訪れると、そこは「朝市通り」にある古い街並みから少し浮き出た雰囲気のカフェ。リノベーションしたという小洒落た店内が、羅漢さんの雰囲気と不思議とマッチする。ラッパーとして活動する傍ら、昨年10月には五城目町観光物産PR大使にも任命された。「6年間東京で活動していましたが、今年から拠点を秋田に移したんです。最近では秋田での仕事が増えてきていて、それならここに腰を据えよう」と。

秋田市に生まれ、父の地元である五城目で育った。中学生の頃、気付けば毎日聞いていたラップ。自らマイクを持ったのは大学生の時だった。「最初は、夜の街や路上ライブで披露するしかなくて。それでも口コミや呼び込みで、観客100人のイベントを開催できるまでになりました。当時、『秋田で一番客を入れられるラッパーになる』という目標を立てていて：達成したら上京しよう決めていたんです」。しかし、東京でも夜の街で歌う日々が続く。「秋田にいるのと変わらないと嘆いていた時、知人に『あなたのラップなら、もつとたくさんの舞台で披露されるべき』と言ってもらえて。自分のラップが、ただ夜の街を盛り上げるだけじゃなく、音楽として必要とされているんだと感じました」。その後事務所が決まり、CDも発売。ラッパーとして大きな一歩を踏み出した。

しかし、目の目を見るのはまだ先のこと。ターニングポイントは、2017年に秋田市で開催された、「元祖爆笑王 presents『コレアキッ!』」。出演者は、人気アイドルと、無名の私。当然、不釣り合いですから(笑)：心ないバッシングもかなりありまし

た」。厳しい言葉に落ち込む半面、ここがチャンスだという直感があった。「完全アウエーの空気感の中、まずは、どうしたら自分に興味を持ってもらえるかを考えました」。そうして歌い出したのは、アイドルの歌詞を散りばめたラップ。観客席の空気が、一瞬で変わったという。結果、ステージは大成功。企画者の元祖爆笑王さんにも「今回のMVPは羅漢だ」と言わしめた。「どうしたらお客さんに受け入れてもらえるのかという感覚は、下積み時代に培われていましたから」。酔っぱらい相手に歌う日々が、決して無駄ではなかったのだと証明された出来事だった。

大成功のステージから縁がながり始め、秋田での仕事が増えていく。昨夏にはワンマンライブを開催、昨年11月には五城目をテーマにした新曲「息吹」を発表した。「僕、きれいごとが嫌いなんです。歌詞にいいことばかりを並べたくはない。だから、地元の子どもたちに率直な意見を聞きました」。町の嫌いなところ：「お年寄りが多い」「お店が少ない」、子どもたちからは素直な意見があふれ出た。「でもよくよく聞いてみると、『みんなこの場所が好きなんだな』って思いましたね。店が少ないところが嫌いな、自然が多いところが好きだったり」。地元への愛情、不安、期待：新曲にはそんな想いを包み隠さずしたためた。

今、胸の中に秘めているのは、昔とは違う温かい気持ち。「一番になりたいなんて思っていないんです。ただ大切な人たちに幸せにできれば、それだけで十分」。熱く、ひたむきな思いを、ふるさとから届けていく。

## Rakan Interview

インタビュー

### ラッパー 羅漢さん

ら かん

秋田市生まれ、五城目町育ち。ラッパー、五城目町観光物産PR大使。Jリーグ所属「ブラウブリッツ秋田」公式応援サポーター & 公式応援ソング「We Are AKITA!!」作詞：羅漢, BERABOW 作曲：BERABOW  
[https://twitter.com/rakan\\_rose](https://twitter.com/rakan_rose)



2nd ALBUM  
「狼煙」



飾らない気持ちを  
真つすぐに  
大切な人たちに  
届けたい

撮影協力【いちカフェ】  
朝市通りに佇むカフェ。コーヒーは秋田市の「08COFFEE」から仕入れ、ランチメニューやパスタ、スイーツも好評。テイクアウトもあり。  
□住 所：五城目町字下夕町59-6 ☎なし  
□営業時間：10:00～15:00  
※「ごじょうめ朝市plus+」開催日は9:00～  
□定 休 日：土曜・日曜・月曜・祝日  
※「ごじょうめ朝市plus+」が開催される土曜・日曜は営業